

# 令和4年度市町村における「健康長寿に係るイチオシ事業」

市町村名

美里町

## 1 事業名(タイトル)

ICT&SIBの活用により長寿命化と扶助費の増加抑制を可能とする飛び地連携型大規模ヘルスケア事業

## 2 事業概要

美里町では、人口減及び加速する高齢化に伴う扶助費の増大という課題に対して、以前から町民の健康意識の向上及び生活習慣病の予防を目的として健康づくり事業を実施していたが、平成29年度から実施している「ミムリン健幸ポイント事業」については、平成31年1月1日現在で人口の約21%にあたる2,379人が参加しており、参加者に対してより効果的な事業展開・規模拡大が必要であった。

しかしながら、美里町のような小規模自治体では事業費の確保が厳しく、また、今後規模拡大をするにあたっては、参加者確保並びに医療費及び介護給付費抑制が期待できる事業の実施においてノウハウが不足し、担当各課との調整を含め職員の負担が増大となることが予想された。

そこで、令和元年度から地方創生推進交付金を活用しICTによる4市（山口県宇部市、岩手県遠野市、京都府八幡市、鹿児島県指宿市）と広域連携事業を行い、SIB（ソーシャルインパクトボンド）を活用した民間サービス事業者への成果報酬型契約、産官学連携による民間ノウハウの活用及び地域課題解決可能なICTヘルスケアサービスにより、5年後に医療費・介護給付費12億円の抑制を目的として健康づくり事業を実施している。

また、地方創生推進交付金終了後も継続した事業展開ができるようSIBモデルを構築する。

### ●実施事業

- ・ミムリン健幸ポイント事業（参加者数：3,197人）

国の実証実験により医療費抑制効果が認められたポイントロジックを活用。

新型コロナウイルス感染症による健康二次被害対策のため、魅力あるインセンティブを活用した歩数イベントを実施した。

- ・運動教室（参加者数：213人）

個人の体力や年齢にあった個別運動プログラムを活用。

### 3 参加者数

3,197 人

備考 2022/12/1現在

### 4 予算

56,523 千円

備考

### 5 事業効果等

#### 1. ミムリン健幸ポイント事業における取組状況

(1)参加状況 参加者数 3,069人(令和4年4月1日)→3,197人(令和4年12月1日)

(2)令和3年度KPI達成状況

- ①参加者数 美里町：177%、5市町平均：114%
- ②運動不十分層割合 美里町：123%、5市町：141%
- ③継続率 美里町：90%、5市町平均：94%
- ④歩数の変化 美里町：58%、5市町平均：80%
- ⑤合計 美里町：96%、5市町平均：99%

(3)令和4年度取組状況

①参加者確保に向けた取組

新規参加者を増やすため、住民担当の窓口及びマイナンバー登録窓口に参加申込書を置き、参加の機会を増やした。また、保健センター内だけでなく、生涯学習担当のイベントに体組成及び血圧計のブースを出し、事業の周知を行った。さらに、町内歩数計のデータ送信機設置場所に、チラシ及びPOPを置き、事業の周知を行っている。

○月別参加者数

4月14人、5月15人、6月18人、7月17人、8月36人、9月35人、10月18人、11月21人 合計174人

○埼玉県コバトン健康マイレージへの参加

美里町では独自で「ミムリン健幸ポイント事業」を実施しているため、参加者はデータ連携により、「埼玉県コバトン健康マイレージ」へ参加している。

・令和4年第3回参加者 3,197人(人口の約29%)

②参加者の歩数増加に向けた取組(モチベーション維持向上)

医療費抑制に向けて、昨年度の結果から今年度は参加者の歩数増加に向けて取り組む必要があった。そのため、歩数増加に向けて継続的に以下の事業を実施した。

○ヴァーチャルウォーキングイベントの開催

コロナによる密を避けながら歩数向上を目指すため、以下のイベントを開催した。

※その他取組の詳細は別紙参照

## 6 その他(課題等)

### (1)新たな課題

#### ①若年層の参加率

新規参加者数は235人と目標の100人を大きく上回ることができ、若年層についても増加がみられるが、若年層の参加を増やすため更なる対策講じる必要がある。若年層が健康を意識し、維持することが将来の医療費抑制効果に大きく寄与するため、若年層が参加するような仕掛を検討する必要がある。

#### ②参加者の歩数変化

連携5市町とも、新規参加者及び継続参加者における目標値を達成できていない。美里町においては、連携5市町の中で一番達成度が低く、継続的に歩く参加者と、歩かない参加者の歩数の差が大きい。全体的な歩数の向上を目指す仕掛を検討する必要がある。

### (2)新型コロナウイルス感染症による影響

コロナウイルスの蔓延に伴う外出自粛により運動機能の低下が懸念され、また、感染を恐れて閉じこもりになることで地域等との繋がりが絶たれることにより人との接点が無くなり、結果生活習慣病を発症している傾向が見られるので、対策が必要となっている。

### (3)歩数計を基にしたコミュニティの形成

歩数データの送信場所まで行けない参加者（主にお年寄り）を対象に、地域で開催されている事業に出向き、歩数データの送信補助とともに、情報提供を行っている。結果、未参加の人に口コミで情報が伝わり、歩数計を元としたコミュニティが形成され、継続的な参加者の増加に繋がっている。

## 7 写真・グラフ等

